

心サルコイドーシス

② 心電図

① CRBBB

心サルコイドーシスの12～66%に認められる。
比較的LV機能が保たれてる軽症例で初期から高率に認められる。
サルコイドーシスの経過観察中に、新たにCRBBBが出現したもののや
DCM+CRBBB例では心サルコイドーシスを疑う。

② III° AVB、高度AVB

心サルコイドーシスの初発症状の23～77%
特発性III° AVBでペースメーカー植込みを受けた例の11～20%が
心筋生検で心サルコイドーシスと診断されたとの報告あり。
これらのAVBは、中隔部の刺激伝達系の障害により引き起こされる。
CRBBBが先行しAVBに進展する例も多い。
ステロイド治療などにより軽快することも見られる。

③ 異常Q波、軸偏位、 $Rv_3 < Rv_2$

④ VT、VF

心サルコイドーシスの初発症状の23～36%
サルコイドーシスにおける死亡例の約50%を心臓死が占めるが、
生前に心臓病変が診断された例は25%に過ぎない。
多くはSDと推測され、VT、VFがその主因と考えられる。
多源性PVC、ショートラン、複数フォーカスのVTでも心サルコイドーシス発症を疑う。
心室性不整脈の成因として、心筋障害部位をフォーカスとしたリエントリー回路の
形成が想定されている。特に心室瘤の周辺がフォーカスとして高頻度である。
心機能と関係なく、突然不整脈により発症する例があることに注意。